

令和 5 年 8 月 30 日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）

団体名 公益財団法人ひろしま美術館

代表者職・氏名 館長・池田晃治

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和 4 年 8 月 26 日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	「ピカソ 青の時代を超えて」	
開催施設名	会期	入場者数
ポーラ美術館	2022 年 9 月 17 日～2023 年 1 月 15 日	90,420 人
ひろしま美術館	2023 年 2 月 4 日～2023 年 5 月 28 日	88,692 人
●開催概要 ポーラ美術館とひろしま美術館は、パブロ・ピカソ(1881-1973)の「青の時代」の傑作《海辺の母子像》(1902 年、ポーラ美術館蔵)と、《酒場の二人の女》(1902 年、ひろしま美術館蔵)をはじめ、ピカソの重要作を展示公開し、その研究を深めてきた。この 2 作品は 2021 年秋からカナダのアート・ギャラリー・オブ・オンタリオとアメリカのフィリップス・コレクションで開催された「Picasso: Painting the Blue Period」展に出品し、この北米展開催に向けてアメリカから科学調査のために調査員が来日するなど、国際的に注目されている。本展はその調査研究の成果を日本の皆さまにも還元することを目的とし、あわせて、「青の時代」以降も様々に変化するピカソの画業全体を紹介したものである。 また、あわせてピカソの全生涯の作品を展示することで、ピカソの実像をわかりやすくひもとく展覧会とすることを目的とした。そのため、両館の所蔵作品に特に関係の深く、初期ピカソを読み解く重要な作品を海外から借用し、さらに国内借用作品を加え、油彩画 54 点、パステル・素描・版画・彫刻など 27 点の合計 81 点で構成した。 結果、両館とも目標の入館者を上回り、神奈川(箱根)会場・広島会場ともに、地域の人たちの来館にとどまらず、全国からの来館者を得て好評を博した。最新の科学調査・研究を紹介した点で専門家からも高い評価を得たとともに、若い世代を含む一般の来場者からもピカソの全体像を知ることができたとの声を多くいただくなど大変好評であった。また、両館に足を運ぶ、あるいは同じ会場に複数回来場したとのリピーターが多かったのも特徴であり、全体として最新のピカソ像を紹介したいとの企画者側の意図は十分に達成されたと考えている。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

【入場料の無料化・軽減等】〔予定軽減金額 621 万円、実績 1,290 万円〕

○ポーラ美術館

A: 箱根町在勤者無料期間 14 日間(延べ 320 人)

B: 24 歳以下(~高校生)無料期間 14 日間(延べ 2,413 人)

＜軽減金額＞ 320 人×1800 円+2,413 人×1,430 円=4,026,590 円

〔予定軽減金額 306 万円、実績 403 万円〕

○ひろしま美術館

大学生を通常料金より 200 円引きとした。

高校生以下を無料とした。

実績: 大学生 6205 人、高校生 2012 人、中学生 1819 人、小学生 2794 人

＜軽減金額＞ 6205 人×200 円+2012 人×1500 円+(1819 人+2794 人)×1000 円
=8,872,000 円

〔予定軽減金額 315 万円、実績 887 万円〕

【教育普及活動の充実】〔予定軽減金額 300 万円、実績 463 万円〕

(共同企画)

○「青の時代」をめぐる展覧会開幕記念講演会

2022 年 9 月 16 日(金) 18:30-20:00 聴講無料

オフライン会場: インスティテウト・セルバンテス東京(東京都千代田区六番町)

オフライン参加者 101 人、オンライン参加者 364 人(日本、スペイン、イギリス、アメリカ、
モンゴル、香港からの参加)

〔予定軽減金額 200 万円、実績 14 万円〕

(ポーラ美術館)

○子ども・大人向けの教育的な動画制作

〔予定軽減金額 100 万円、実績 167 万円〕

(ひろしま美術館)

○調査研究発表会&討論会

2023 年 2 月 25 日(土) 参加者 91 名

○開催記念講演会 1「日動画廊社長・副社長長谷川夫妻」

2023 年 3 月 5 日(日) 14:00~15:30 聴講無料 参加者 350 名

○開催記念講演会 2「原田マハ氏」

2023 年 4 月 30 日(日) 14:00~15:30 聴講無料 参加者 550 名

〔ひろしま美術館独自イベント予定軽減金額合計 0 円、実績 282 万円〕

【展示作品の質的充実】〔予定軽減金額 1,293 万円、実績 1,103 万円〕

○作品借用料〔予定軽減金額 200 万円、実績 92 万円〕

○監修費〔予定軽減金額 200 万円、実績 118 万円〕

○作品追加輸送料〔予定軽減金額 893 万円、実績 893 万円〕※一部を充当

予定軽減金額合計 2,214 万円、実績 2,856 万円

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

軽微な事故、ヒヤリハット事例のいずれもなかったが、天候によるスケジュール変更への迅速な対応が求められるケースがあった。冬季の移動(ポーラ美術館⇒ひろしま美術館間)の際の積雪、ひろしま美術館終了後返却時の集中豪雨で、高速道路等の通行止めによる日付を超えたスケジュール変更を余儀なくされた。クーリエおよび各館の居残り担当者、輸送業者等の連携により、作品への影響はなく乗り越えることができたが、予想外の事態に備えた準備(ケーススタディの繰り返し)への備えを痛感させられた。

4. 安全配慮に関する特別の対応

開催2館の立地(山間部のポーラ美術館、都市部のひろしま美術館)や設備が異なるため、同じ展覧会でも対応が異なるケースがいくつかあった(夜間警備や搬出方法など)。いずれも、安全配慮により、それぞれの立場をしっかりと説明し、各種専門家にアドバイスをいただくことにより、それぞれの立地と施設に最適な安全対策をとることができた。

また、特にひろしま美術館では、展覧会開催決定後に決まった G7 広島開催によって、警備体制の見直しを余儀なくされた。警察とのより緊密な連携(事前に警備体制の相談を行った)、警備員の増員等によって、より堅固な警備体制がとられ、無事展覧会を終えることができた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

すでによく知られた作家であるピカソであったが、最新の研究成果を盛り込んだ上で全生涯にわたる画歴や作品を丁寧に紹介することで、多くのお客様から好評を得たと考えている。安易に決まる出品作品をもとにした展覧会ではなく、担当学芸員たちによる作品選定と出品交渉、作品の丹念な事前研究とがうまく機能し、お客様の満足度を高めたと思われる。

著名な作家の展覧会だといって、飽きられたということではなく、しっかりとしたヴィジョンとテーマをもって紹介することによって、まだまだ国民の皆様に興味をもっていただくことができると考える。そのためにも、基本となる作品の安全配慮および安全面での設備の更新など、多くの示唆をいただいた。今後の展覧会の企画に活かしていきたい。

6. 展覧会の収支決算書(公開用)

ポーラ美術館

●収入

区分	内 訳	決算額(万円)
展覧会収入	展覧会収入・その他収入	14,761万円
赤字	主催者補填	0万円
収入総額		14,761万円

●支出

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	企画準備等基本経費 (両館合計)8,172/2=4,086	4,086万円
	企画準備等基本経費 (単独)	1,458万円
設営・運営等会場関係経費	設営・運営等関係経費	6,595万円
利益	今年度以降開催企画展に補填	2,622万円
支出総額		14,761万円

主催者名 ひろしま美術館

●収入

区分	内 訳	決算額(万円)
展覧会収入	展覧会収入・その他収入	10,930万円
赤字	【補填内容】	0万円
収入総額		10,930万円

●支出

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	企画準備等基本経費 (両館合計)8,172/2=4,086	4,086万円
	企画準備等基本経費 (単独)	662万円
設営・運営等会場関係経費	設営・運営等関係経費	3,123万円
利益	今年度以降開催企画展に補填	3,059万円
支出総額		10,930万円